



豊永 はるさん  
Toyonaga Haru

〔横田区〕

とよなが はる / 第43回全日本中学生水の作文コンクール優秀賞受賞。約1万3千編を超える応募の中から9つある優秀賞に選出。タイトルの「あいにく」には、水への感謝が込められている。

## 時に恐ろしく、でもなくてはならない水の恵みに感謝を

「この作文を通して、豪雨災害の被災地で感じた水の恐ろしさや地域に残る先人たちの水をめぐる工夫など、日々の暮らしと水との関係を見つめる事ができました」と話すのは、第43回全日本中学生水

の作文コンクールで全日本中学校長会会長賞（優秀賞）に輝いた豊永はるさん（甲佐中3年・横田区）。同コンクールは、次代を担う中学生に水について理解を深めてもらうために国土交通

省や都道府県が主催し、暮らしを支える水の恩恵を享受し続けるために何をすべきかを問うもの。本町では甲佐中学校の3年生が毎年取り組んでいる。豊永さんは、農家の祖父父母が雨を喜ぶ姿から水をめぐる先人の知恵やその恵みに触れる一方で、熊本豪雨で被災した人吉球磨地域で感じた水の持つ恐ろしさを表現。天気予

報などで耳にする「あいにくの雨」というありふれた表現に対する自身の違和感を引き合いに、災害を乗り越えてきた人々のたくましさに学び、水への感謝を忘れないことの大切さを訴えた。

「昨年11月、甲佐中の有志でボランティア活動に参加しました。発災から3カ月経ってなお土砂が堆積したままの田畑を目にしたとき、大きなショックを受けたのを覚えています。あれから1年が経ちますが、現地で何度も耳にした『まさかここまでの被害になるとは』という言葉は今でも思い出します」

執筆するにあたり、自宅近くを流れる上井手用水などについて調べる中で、日常風景に溶け込んでいた地域の歴史を再発見できたという豊永さん。「自然の恐ろしさを正しく理解しながら、この地を潤してきた水の豊かさや甲佐の暮らしの礎となった先人たちの努力を自分なりに発信していけたらいいな」と笑う彼女は、川とともにあるこのまちの未来を見つめている。